

平成28年度第4回精華町社会教育委員会議 会議録

■日時

平成28年10月4日（火）午後1時30分から午後3時30分まで

■場所

精華町立図書館1階集会室

■出席委員

- ・清水 真理子 ・田中 智美 ・高鍋 房美 ・福味 真樹紅 ・石井 好昭
- ・尾崎 麻由美 ・堀内 保寛

■出席事務局職員

- ・教育長：太田 信之 ・教育部長：岩崎 裕之
- ・教育委員会教育部生涯学習課長：仲村 大
- ・教育委員会教育部生涯学習課社会教育係長：清田 武宏

■傍聴者

なし

■内容

1 開会

2 教育長あいさつ

太田教育長

- 先日、精華町で「重大ないじめ被害」があった旨、新聞報道がなされた。
- 京都府教育委員会の調査によるもので、その調査が定義する第3段階（重大ないじめ被害）にあたるものとされた。
- 府内で唯一の事案となったことから大きく取り上げられたが、現在は事態も落ち着き、生徒自身も快方に向かっている。

- 京都府教育委員会では、府立南陽高校において中高一貫教育の導入の検討が進められている。
- 同校は学研都市内に立地する好条件ながら、地元から地域外に進学する生徒が増えていることが課題となっている。
- 中高一環教育を導入することで、教育の充実と課題の解決が期待されている。
- 京都府教育委員会では、平成29年4月に準備室が設置され、30年度4月には開校される予定である。

3 報告

(1) 平成28年度京都府社会教育委員連絡協議会総会について

田中委員長

- 9月9日(金)、近畿地区社会教育研究大会が開催された。参加した委員より所感を述べられたい。
- 講演では、近江八幡の「権座」をテーマとしたもので、地域資源を活かした村おこしの好事例であった。
- 地域住民にとっては何気ない風景や文化であっても、他の地域には新鮮かつ斬新な印象を与えること、地域資源を改めて見直す重要性を学ぶことができた。
- コミュニティの醸成について、「人の中で人を育てる」という発言があり非常に印象深かった。

尾崎委員

- 「権座」では、伝統行事の継承とあわせ、子どもから高齢者までが集える行事を開催している。
- 子どもの頃より郷土愛が育まれており、若者のUターンも多いため、後継者の育成も進められている。

高鍋委員

- 「権座」の取り組みは、地域住民にとって何気ない景観に注目したことが発端であった。
- 地域外の住民を対象とした行事だけでなく、地域に愛される行事となるよう工夫されていることが、重要なまちづくりの視点であると感じた。
- 今や家庭と学校と地域を結ぶ重要な取り組みとなっている。

福味委員

- 「権座」は、元行政職員が手掛けるもので、補助金の獲得など継続的な運営が非常に意識された事例であった。
- 分科会では、伝統芸能の保全をテーマとしたもので、地域の文化継承によるコミュニティ形成の好事例であった。

(2) その他

田中委員長

- 前回の定例会以降に進められた社会教育関連事業について、事務局より報告願いたい。

事務局

- 青少年健全育成協議会では、町内小・中学生より健全育成標語の募集と優秀作品の選定を行った。
- 小学生の部、中学生の部、それぞれの最優秀作品については、同協議会が作成する、啓発用のぼり旗やポケットティッシュに掲載する。
- むくのきセンターほか体育施設については、精華町体育協会を指定管理者とし管理運営を行っている。毎年度、その業務実績を確認し評価を行っている。
- 先般、外部評価機関として設置している「精華町教育委員会所管施設指定管理者評価委員会」を開催し評価を受けた。
- 評価結果については、議会に報告するほか、webページ等にも掲載し幅広く公表していく予定である。
- 10月15日（土）、各種団体の協力を得、精華町子ども祭りを実施する。委員の皆さまにも当日の運営を含め、ご尽力いただく。
- 毎年度、図書館が発行している図書館年報を作成し、公表を進めている。平成27年度の貸出点数等、経年比較できる指標を掲載した。
- 読書推進に係る各種事業の実績や図書館の歴史的経過も掲載している。

石井委員

- 指定管理者評価結果の実績から確認する限りでは、木津川河川敷多目的広場の利用促進が図られていない。有効活用できるよう検討してはどうか。

事務局

- 国土交通省より借用している施設であり、活用するため環境整備するには制限がある。うまく活用するため、今後のあり方を検討していく必要がある。
- 平成30年度に実施予定の指定管理者の更新とあわせ、検討していきたい。

高鍋委員

- 以前の社会教育委員会の研修会で、住民からの意見を集約し、住民自らが公園づくりを行った事例の紹介があった。
- 新たに環境整備するのであれば、住民や利用者も巻き込んで検討を進めてはどうか。

清水委員

- 今回の子ども祭りでも、中学生ボランティアは参加してくれるのか。

- 運営スタッフとして子どもたちが参加することは、非常に貴重な機会と考える。ぜひ継続して実施してもらいたい。

事務局

- 前は、開催時期を大幅に変更し、年度末の3月に開催することとなったため、中学生ボランティアが減ってしまった。
- 今年度は、例年どおり10月に開催するため、学校の協力を得、十分な人数を確保することができる予定である。
- また、京都廣学館高校にも、学生ボランティアの参加について打診し了解を得ている。今年度は学校行事と重複しているため参加いただけないが、次年度以降は参加いただける予定である。

石井委員

- 様々な体験学習ができる「子ども祭り」は魅力的であるが、現在の子どもたちには多くの刺激がある。このままでは、多くの子どもたちの参加を得るには難しいのではないかと。
- 本来の目的とは異なるが、多くの参加を得るには、流行のキャラクターに関連するような内容を含むことも検討してはどうか。

事務局

- 子ども議会に参加した子ども議員でさえも、「子ども祭り」自体を知らない児童もいるのが現状である。
- 議会でも議論があった件であり、これまでの実績を踏まえ、今後の取り組みについて実行委員会で議論いただく予定である。

高鍋委員

- 町民体育大会では、参加自治会が減少傾向にある。前回の定例会で議論があったが、今後の見直しの検討は進んでいるのか。

事務局

- このような場合、他自治体の事例では分散化する傾向にある。長期的には精華町でも分散化を可能性の一つとして考えている。
- 開催規模を見直すのではなく、競技を見直すなど、あくまでも町全体の規模を継続していくことを前提とする方針である。

石井委員

- コミュニティの希薄化が課題となる時代において、町全体の規模で開催できていることは、非常に評価できるものとする。
- 八幡市や京田辺市では小学校区単位で実施されている。実施主体は行政ではなく、地域の体育委員と体育協会が主催している。

事務局

- 精華町の場合、現状では小学校区単位での分散開催は難しいと思う。
- 体育協会は学校区ごとに支部が設置されておらず、全ての校区の業務を体育協会本部だけで負担することは困難と考える。

- 「子ども祭り」や「町民体育大会」については、いずれも見直しの時期に来ている。議論いただいた意見も参考にしたい。

4 議事

(1) 京都府社会教育研究大会（長岡京市）について

田中委員長

- 京都府社会教育研究大会について開催要項に基づき、詳細を確認していきたい。

事務局

- 京都府社会教育研究大会について、11月22日、長岡京市立中央公民館で開催される。
 - 京都府健康福祉部長を招き、児童虐待の実態等について講演いただく。
 - 講演後は、「今、社会教育委員に求められるもの」をテーマに、パネルディスカッションが実施される。分科会に分かれるのではなく、全体での意見交流を行うこととなる。
- ⇒質問等、その他特記事項なし。
石井委員が欠席である旨、確認。

(2) その他

特記事項なし。

(3) 次回委員会議

平成28年12月19日（月）13時30分～

5 閉会